

令和7年度

全国学力・学習状況調査の結果・分析と今後の取組について

本年4月17日に、小学校第6学年及び中学校第3学年を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、7月末に文部科学省国立教育政策研究所から出された報告書を参考にし、いなべ市の児童生徒の学力の定着状況、学習状況、生活習慣等に関する調査結果の分析と今後の取組をまとめました。

「全国学力・学習状況調査」は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教科指導の充実や学習状況の改善等に役立てる目的で実施されています。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することが目的とされています。今後も、本調査により測定できるのは学力の一部であり学校における教育活動の一側面であることを十分考慮しつつ、いなべ市の教育の一層の充実を図ってまいります。

いなべ市教育委員会事務局
学校教育課
令和7年9月

【課題となった問題】

3 三（1）本市の正答率：38.8%（全国の正答率：40.8%）

<問題の概要>

資料【話し合いの様子】 **A** に当てはまる内容として最も適切なものを選択する問題。

（正答：3）

(1) 【話し合いの様子】の A に当てはまる内容として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

4 【資料1】の部④

3 【資料1】の部③

2 【資料1】の部②

1 【資料1】の部①

世代	雨が降りそうな様子 (△)	小雨が降ったりやんだりしている様子 (■)
16-19さい	31.9	50.4
20代	42.9	43.5
30代	34.1	53.7
40代	33.4	53.9
50代	26.1	61.2
60代	33.6	52.6
70さい以上	39.8	46.2

(文化庁「令和4年度国語に関する世論調査」による。)

【話し合いの様子】

三 木村さんは、言葉の変化について田中さんと話し合いながら、【資料1】を読み返しています。次の【話し合いの様子】をよく読んで、あとの(1)と(2)の問いに答えましょう。

【資料4】

ぼくが読んだ二つの資料（【資料2】、【資料3】）には、言葉が変化していることが書かれていたよ。【資料1】に「言葉の正誤を軽々しく決めることはできない」と書かれていることにつながっているよ。

私は、この資料（【資料4】）を見つけたよ。これを見ると、世代によって、「雨模様」の意味のとりえ方にちがいが分かりますよ。

本当だ。三十代から六十代は本来の意味とはちがう。小雨が降ったりやんだりしている様子」ととらえている人の割合が高いね。

こんなふうに、人によって言葉の意味のとりえ方がちがうと、伝え合うときに困ると思うよ。だから、【資料1】に「A」と書かれているとおりだと思うよ。

言葉の変化については、いろいろな考えがあるんだね。もう一度【資料1】を読み返して、言葉の変化について自分が一番納得したことをまとめよう。

木村さん

田中さん

木村さん

田中さん

木村さん

<出題の趣旨>

・ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることができるかどうかをみる。

<解答状況>

- ・ 解答類型2（誤答）を選択した児童は36.2%であった。【資料4】田中さんの「人によって言葉の意味のとりえ方がちがうと、伝え合うときに困る」という考えの前半部分にある「言葉の意味のとりえ方がちがう」という事実と、【資料1】『『本来の意味』『本来とは違う使い方』といった言い方にとどめています」とが結び付くと捉えたためであると考えられる。また、複数の資料を結び付けようとしたが、必要な情報を整理しきれなかったと考えられる。
- ・ 解答類型3（正答）を選択した児童は38.8%であった。【資料4】と【資料1】で言葉が言い換えられていても文脈を理解し、【資料1】「コミュニケーションの食い違いを放置しておくわけにもいきません」と書かれていることと結び付けて捉えることができたと考えられる。

【課題等 ○…できている点 ●…課題のある点】

- 漢字を文の中で正しく使うことができている。
- 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができている。
- 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに課題がある。
- 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することに課題がある。
- 事実と感想、意見などとの関係性を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することに課題がある。

【課題となった内容に対する今後の取組み方針】

◇目的に応じて必要な情報を見付ける

目的に応じて必要な情報を見付けるには、情報を整理したり再構成したりして読むための視点を持ち、文章と図表などの情報を合わせて読んだり、複数の資料を関連付けて読んだりすることが大切である。また、必要な情報を集めるためには、自分にとってより良い調べ方やより分かりやすい資料に出会うことが重要である。

指導にあたっては、複数の調べ方を体験するだけでなく、より良い調べ方を模索できる時間設定を行うこと、友達と調べ方について交流し、自分にとってのメリット・デメリットに気付くことのできる機会を設けることを通して、児童が必要を感じる活動になることを意識していきたい。

情報を関連付けて読むためには、それぞれの資料にある語句や情報がどの部分と結び付くのか、丸や四角で囲んだり、線でつないだりするなど、必要な情報を視覚的に明らかにしながら読むことが効果的である。その際、対話を中心とした協働的な学習場面を設定し、児童自身が読む目的に立ち返り、必要な情報を再確認して資料を読み直すなど、児童同士での気付きや行動も価値付けていきたい。

語句と語句や文章同士の関連性に気付くことも、前段階の手立てとして必要であると考え。例えば、「似ている言葉を集める」ことや「言葉を説明し合う」機会を日常化することで、言葉に対する抵抗感を減らし、語句と語句や文章同士の繋がりに気付けるようにしていきたい。

こうした指導においては、1年生からの系統性に留意した積み重ねを意識していきたい。

◇目的や意図に応じて伝え合う内容を検討する

目的や意図に応じて、関係する材料を整理していくことが重要である。その際、学級会やインタビューなどの流れや状況を具体的に想定することや、課題に対する一人ひとりの気付きや疑問を引き出し、検討する材料を集めることも大切である。

指導にあたっては、目的や意図に応じて、材料を内容ごとにまとめたり、それらの関係性が明確になるように書き表し方を工夫したりして記録することを求めている。その過程で、書き表し方の意味を共有したり、相手の立場を通して考えたりする場を設け、目的意識がより高まるようにしていきたい。

◇文章全体の構成を捉えて要旨を把握する

要旨とは、書き手が文章で取り上げている内容の中心となる事柄や、書き手の考えの中心と

なる事柄などである。文章の各部分だけを取り上げるのではなく、文章全体の構成を捉えることと、事実・感想・意見などとの関係を捉えることが重要である。

指導にあたっては、書き手がどのような事実を理由や事例として挙げているか語句や文章を書き出し、書き手の考えを自分の言葉で短くまとめるなど、内容の中心を捉えられるようにしていきたい。その際、重要な語や文を探すこと、中心となる語や文を探すこと、要約すること、書き手の考えにつながるキーワードを中心に語や文を抜き出すことなど、系統性に留意した学習活動を取り入れていきたい。また、目的が違えば引用する部分も異なることから、児童が目的に立ち返りながら活動を進められるようにしていきたい。

2 小学校 算数 《 実施人数：343人（いなべ市） 》

【よくできていた問題】

2 (3) 本市の正答率：79.6%（全国の正答率：79.3%）

<問題の概要>

図1の角㊦と図1の2つの辺をのぼした図2の角㊧、それぞれの角の関係を選択肢の中から選ぶ問題。

（正答：ウ）

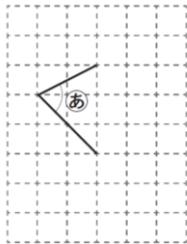


図1

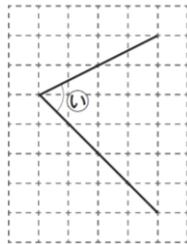


図2

ア ㊦の角の大きさのほうが大きい。

イ ㊧の角の大きさのほうが大きい。

ウ ㊦の角と㊧の角の大きさは等しい。

エ ㊦の角と㊧の角の大きさがわからないので、このままでは比べることができない。

<出題の趣旨>

・ 角の大きさについて理解しているかどうかをみる。

3 (4) 本市の正答率：83.4%（全国の正答率：81.3%）

<問題の概要>

$\frac{1}{2} + \frac{1}{3}$ の計算をする問題。

（正答： $\frac{5}{6}$ ）

<出題の趣旨>

・ 異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかをみる。

4 (1) 本市の正答率：80.5% (全国の正答率：82.8%)

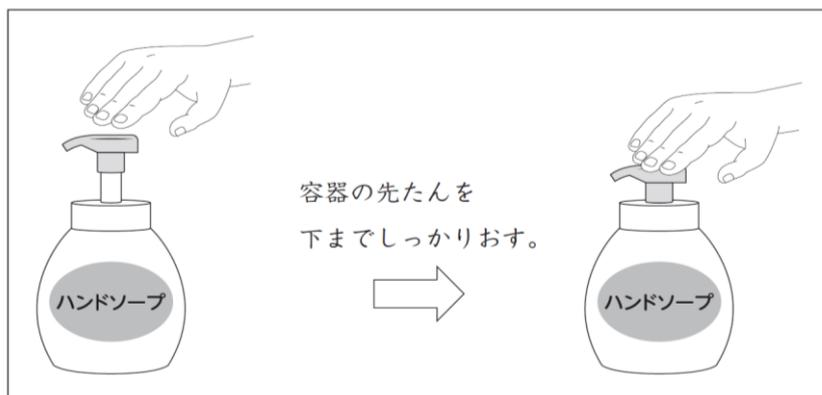
<問題の概要>

240mL の液体が入っているハンドソープが、何プッシュで空になるのかを計算で求めるために必要な情報を、選択肢の中から選ぶ問題。

(正答：ア)

丨プッシュとは、容器の先たんを下までしっかり丨回おすことです。

丨プッシュしたとき、ハンドソープの液体が毎回同じ量ずつ出ることとします。



保健室にある新品のハンドソープには、ハンドソープの液体が 240 mL 入っています。

新品のハンドソープには、ハンドソープの液体が 240 mL 入っています。
新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるのかを知るためには、240 mL の他に何がわかればよいですか。

下の ア から エ までの中から 丨つ選んで、その記号を書きましょう。

- | | | |
|---|-----------------------|------|
| ア | 丨プッシュ分のハンドソープの液体の量 | 3 mL |
| イ | 丨プッシュするときにおす長さ | 2 cm |
| ウ | あさひさんが丨日にプッシュする回数の平均 | 8 回 |
| エ | あさひさんが手を洗うときにかかる時間の平均 | 60 秒 |

<出題の趣旨>

・ 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができるかどうかをみる。

【課題となった問題】

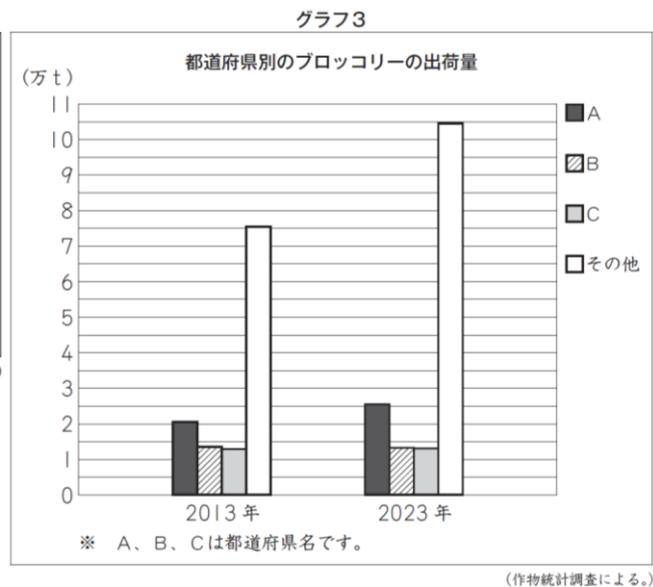
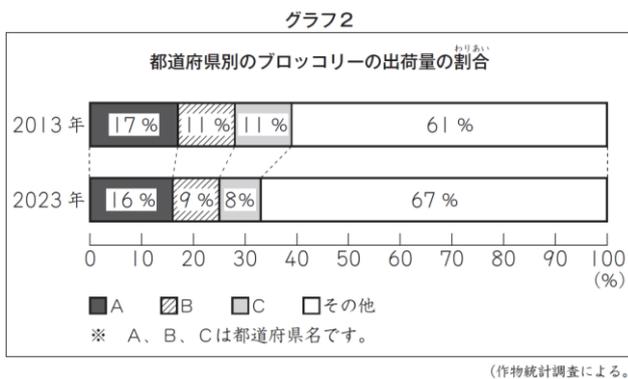
1 (2) 本市の正答率：28.9%（全国の正答率：31.0%）

<問題の概要>

2023年の都道府県Aのブロッコリーの出荷量が、2013年より増えたかがわかるグラフを選び、そのわけを言葉や数を使って書く問題。

（正答例）【記号】ア

【わけ】グラフ3を見ると、2013年の都道府県Aのブロッコリーの出荷量は約2万t、2023年の都道府県Aのブロッコリーの出荷量は約2.5万tで2023年のほうが多いです。だから、都道府県Aのブロッコリーの出荷量は増えています。



- ア 2023年は2013年より増えた。
イ 2023年は2013年より減った。

<出題の趣旨>

- ・ 目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。

<解答の状況>

- ・ 正答の条件は、以下の通りである。
記号をアと選び、次の①、②の全てを書いている。
① グラフ3に着目したことを表す言葉
② 2023年の都道府県Aのブロッコリーの出荷量が、2013年より多いことを表す言葉や数
- ・ 本設問の正答率は28.9%であった。正答の条件のうち、①は満たしているものの②は満たしていない解答類型2が21.9%と、誤答のうち最も高い割合である。2023年は2013年より増えたかと判断し、出荷量を示すグラフ3に着目することはできているが、2023年の都道府県Aのブロッコリーの出荷量が、2013年より多いことを記述することはできていない。言葉や数のいずれかが欠如し、説明不足になっている解答があることから、目的に応じて理由や根拠を整理し、論理的に説明することができていないと考えられる。

3 (2) 本市の正答率：22.4% (全国の正答率：23.0%)

<問題の概要>

$\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ の計算で、もとにする数を同じ数にするとき、その数は何になるかを求め、さらに $\frac{3}{4}$ と $\frac{2}{3}$ はそれぞれもとにする数の何個分かを、数や言葉を使って書く問題。

(正答例) $\frac{3}{4}$ と $\frac{2}{3}$ のもとにする数を同じ数にするとき、その数は $\frac{1}{12}$ になります。 $\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{12}$ の9個分、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{12}$ の8個分です。

まず、みおりさんは、 $\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ についてまとめています。



みおり

$\frac{2}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の2個分、 $\frac{1}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の1個分です。

$\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ の計算は、 $\frac{1}{5}$ をもとにすると、 $2 + 1$ を使って考えることができます。

次に、ひろとさんは、 $\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ について考えています。



ひろと

$\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{4}$ の3個分、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{3}$ の2個分です。

もとにする数が $\frac{1}{4}$ と $\frac{1}{3}$ でちがうので、同じ数にしたいです。

$\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ についても、もとにする数を同じ数にして考えることができます。

もとにする数を同じ数にするとき、その数は何になりますか。その数を書きましょう。また、 $\frac{3}{4}$ はその数の何個分、 $\frac{2}{3}$ はその数の何個分ですか。数や言葉を使って書きましょう。

<出題の趣旨>

- ・ 分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる。

<解答状況>

- ・ 正答の条件は、以下の通りである。

次の①、②、③の全てを書いている。

- ① $\frac{3}{4}$ と $\frac{2}{3}$ に共通する単位分数が、 $\frac{1}{12}$ であることを表す数や言葉 (分母が12の倍数の単位分数を含む)
- ② $\frac{3}{4}$ が共通する単位分数の幾つ分かを表す数や言葉
- ③ $\frac{2}{3}$ が共通する単位分数の幾つ分かを表す数や言葉

- ・ 本設問の正答率は22.4%であった。通分について書いている解答類型6が29.4%と、誤答のうち最も高い割合である。通分をして分母を12に揃えることはできているものの、 $\frac{1}{12}$ が単位分数 (もとにする数) であることや、 $\frac{3}{4}$ や $\frac{2}{3}$ が $\frac{1}{12}$ の何個分であるのかを正しく記述できていない。

一方、類似問題である下記の③(1)は短答型ではあるが正答率は77.8%と高い。これらのことから、異分母分数の加法における通分の必要性や、小数における「もとにする数」の理解はできているものの、分数における「もとにする数」という概念を捉えることができていないと考えられる。

$0.4 + 0.3$ は、 0.1 をもとにする数にすると、整数のたし算を使って計算することができます。

次に、 $0.4 + 0.05$ について同じようにまとめます。

0.4 は の40個分、0.05 は の5個分です。
0.4 + 0.05 の計算は、 をもとにすると、40 + 5 を使って考えることができます。

上のにはすべて同じ数が入ります。に入る数を書きましょう。

【課題等 ○…できている点 ●…課題のある点】

- 角の大きさについて理解している。
- 異分母の分数の加法の計算をすることができている。
- 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができている。
- 目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題がある。
- 分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述することに課題がある。

【課題となった内容に対する今後の取組み方針】

◇目的に応じて適切なグラフを選択してデータの特徴や傾向を捉え判断し、その理由を表現できるようにする

様々なグラフの特徴を理解し、目的に応じて複数のグラフから適切なグラフを選択してデータの特徴や傾向を捉え判断し、その判断の理由を他者に分かりやすく表現できるようにすることが重要である。

指導にあたっては、全体の割合や構成比の変化の比較に適する帯グラフや、異なる種類のデータの大小比較に適する棒グラフなど、それぞれのグラフが持つ特徴や利点の理解を図ることが大切であると考え。そのために、日常の事象をグラフ化したものを提示し、そのグラフから読み取れることを伝え合う活動や、実際にグラフを用いて日常の事象を表現する活動を取り入れたい。それらの活動の中で、目的に応じ、特に数や言葉を整理することを意識しながら説明することを大切にしていきたい。

◇分数の加法について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、既習の整数の加法に帰着できるようにする

分数の加法について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目して、共通する単位分数を見いだすことで、既習の整数の加法に帰着できるようにすることが重要である。

指導にあたっては、通分については記述しているものの、単位分数（もとにする数）に関して正しく記述できていない誤答が多いことから、分数の性質についての具体的な理解が大切であると考え。抽象概念のみで完結させないために、テープ等の半具体物を使用することや、小数における「もとにする数」と関連付けながら単位分数について学習するなどの工夫を意識していきたい。

また、前提知識がなくとも分数における「もとにする数」の意味を読み取り、応用すれば正答に辿り着けるため、周囲にある情報から手掛かりを抽出し、別の問題に適用する力をつけることも大切であると考え。その力をつけるために、多くの情報の中から、目的に応じて必要な情報を抜き出し、応用していく活動も取り入れていきたい。

3 小学校 理科 《 実施人数：344人（いなべ市） 》

【よくできていた問題】

① (1) 本市の正答率：79.7%（全国の正答率：79.5%）

<問題の概要>

赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込む時間の違いを調べる実験の条件について、コップAの土の量と水の量から、コップBの条件を書く問題。

	つぶの大きさ	赤玉土の量	水の量
コップAの条件	大きい	300 mL	250 mL
コップBの条件	小さい	(ア) mL	(イ) mL

(正答：ア 300mL イ 250mL)

<出題の趣旨>

- ・赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる。

① (3) 本市の正答率：78.2%（全国の正答率：77.8%）

<問題の概要>

【結果】や【問題に対するまとめ】から、中くらいの粒の赤玉土に水がしみ込む時間を予想し、予想した理由とともに選ぶ問題。

<p>(3) 大きいつぶと小さいつぶを比べたときの【方法】と同じように、中くらいのつぶの赤玉土で実験すると、水がしみこむ時間はどれくらいになると考えられますか。</p> <p>【結果】をもとにして、【考えられる時間】を下の 1 から 3 までの中から1つ、【考えられる時間を選んだ理由】を下の 4 から 6 までの中から1つ、それぞれ選んで、その番号を書きましょう。</p>	<p>【考えられる時間】</p> <p>1 3秒より短い</p> <p>2 5秒から9秒までの間</p> <p>3 11秒より長い</p> <p>【考えられる時間を選んだ理由】</p> <p>4 中くらいのつぶの赤玉土は、大きいつぶの赤玉土より、しみこむのに時間がかからないから。</p> <p>5 中くらいのつぶの赤玉土は、小さいつぶの赤玉土より、しみこむのに時間がかかるから。</p> <p>6 中くらいのつぶの赤玉土は、大きいつぶの赤玉土より、しみこむのに時間がかかり、小さいつぶの赤玉土より、しみこむのに時間がかからないから。</p>
---	---

(正答：【考えられる時間】 2 【考えられる時間を選んだ理由】 6)

<出題の趣旨>

- ・赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件で結果を予想して、表現することができるかどうかをみる。

2 (3) 本市の正答率：82.6% (全国の正答率：78.0%)

<問題の概要>

ベルをたたく装置の電磁石について、電流がつくる磁力を強くするには、コイルの巻き数をどのように変えるとよいかを書く問題。

いおりさんとてつやさんは、かね（ベル）について話しています。

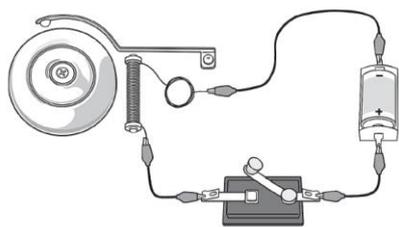
かね（ベル）の鳴る音が小さいので、音を大きくしたいね。電磁石の強さを強くして、かねを強くたたけばいいね。



いおり

電磁石の強さを強くするには、次のようにするといいね。

- ・電磁石のコイルの巻き数を変えたら、巻き数を（ア）。
- ・かん電池を変えたら、かん電池を2個直列つなぎにする。



てつや

(3) 上のふきだしの（ア）にあてはまることばを書きましょう。

(正答：多くする、増やす という趣旨のもの)

<出題の趣旨>

- ・電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻き数によって変わることを知っているかどうかをみる。

【課題となった問題】

2 (1) 本市の正答率：8.7% (全国の正答率：9.5%)

<問題の概要>

アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引きつけられるか、それぞれの性質にあてはまるものを選ぶ問題。

(1) アルミニウム、鉄、銅の性質について、下の **1** から **4** までの中からそれぞれ1つ選んで、その番号を書きましょう。同じ番号を選んでもかまいません。

- 1 電気を通し、磁石に引きつけられる。
- 2 電気を通し、磁石に引きつけられない。
- 3 電気を通さず、磁石に引きつけられる。
- 4 電気を通さず、磁石に引きつけられない。

(正答：アルミニウム…2 鉄…1 銅…2)

<出題の趣旨>

- ・身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引きつけられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる。

<解答状況>

- ・正答は、わずか8.7%にとどまった。
- ・誤答の80.5%は、解答類型6を選択しており、アルミニウム、鉄、銅のいずれかに、「③電気を通さず、磁石に引きつけられる」「④電気を通さず、磁石に引きつけられない」を選択していた。金属の共通する性質として、電気を通すという知識が身に付いていないことが考えられる。

3 (4) 本市の正答率：24.1% (全国の正答率：29.0%)

<問題の概要>

レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気づきを基に、見いだした問題について書く問題。

たかひろさんたちは、レタスの種子を発芽させようとしています。

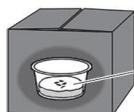


レタスの種子を発芽させようと思って、水、空気、温度の条件を下のようにしたのに、1つも発芽しなかったよ。

水、空気、温度のほかにも、レタスの種子が発芽するために、必要な条件があるのかもしれない。レタスの種子が発芽するために必要な条件を、上の《条件》の中から1つ選んで調べてみたい。



たかひろさんが行った実験



- (条件)
- ・水あり
 - ・空気あり (種子が空気にふれている)
 - ・温度 (室温)
 - ・日光なし (箱をかぶせている)
 - ・肥料なし

- (4) てるみさんは、調べてみたいことをもとに、新たな【問題】を見つけました。てるみさんは、どのような【問題】を見つけたと考えられますか。その【問題】を1つ書きましょう。

(正答の条件)

次の①、②の全てを記述している。

①〈条件〉から、日光または肥料について、1つ選んで記述している。

②レタスの発芽に関し、疑問を示す趣旨で記述している。

(正答例：レタスの種子が発芽するために、日光は必要なのだろうか。)

<出題の趣旨>

- ・ レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる。

<解答状況>

- ・ 正答は、24.1%である。
- ・ 誤答のうち、無解答が10.5%、正答の条件①②が1つも含まれない解答が23.3%であった。問題の意図を捉えられていないと考えられる。
- ・ 正答の条件②が満たされていない誤答が多く、てるみさんの気付きから見いだした新たな問題となっていなかったり、疑問を示す趣旨での表現となっていなかったりしていた。これらのことから、差異点や共通点を基に問題を見だし、その内容を適切に表現することに課題があると考えられる。

【課題等 ○…できている点 ●課題のある点】

- 赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験方法を発想し、表現することができている。
- 赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基にして、他の条件での結果を予想して、表現することができている。
- 電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻き数によって変わることが理解できている。
- 電気を通す物と磁石に引きつけられる物についての理解に課題がある。
- レタスの種子の発芽の条件について、既習の植物の発芽の条件との差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することに課題がある。

【課題となった内容に対する今後の取組み方針】

◇見て、考えて、言葉で表現することを通したより深い理解

観察、実験の結果や結論を、図に整理したり、言葉で説明したりするなど、知識と関係付けて理解を深めることが大切である。

指導にあたっては、例えば、どんな物が電気を通すのかを実験する際には、身の回りの物に対して、電気を通す通さないの実験結果のみで終わらず、電気を通す物と通さない物それぞれの共通点を探し説明する学習活動が考えられる。共通点を考えることで、実際に実験した物の結果のみならず、別の物への関心につなげ、理解を深められるようにしていきたい。

◇差異点や共通点を基に具体的な条件に着目し、問題を見いだすことができるようにする

自然の事物・現象に働きかけて得た事実に基づいて、問題を見いだすことができるようにするためには、事実を比較し、差異点や共通点を捉えることができるようにすることが大切である。

指導にあたっては、例えば、様々な条件を付けてレタスの種子の発芽について学習した後、「発芽するために必要な養分はどこからくるのだろうか」など、調べたいことについて話し合う中で、「成長するためには、肥料や日光が必要なのだろうか」という問題を見いだすことが考えられる。自然の事物・現象に働きかけて得た事実について話し合う中で、自分や他者の気づきを捉え、主に差異点や共通点を基に、問題を見いだす場面を設定していきたい。

4 中学校 国語 《 実施人数：345人（いなべ市） 》

【よくできていた問題】

3 一 本市の正答率：77.1%（全国の正答率：80.0%）

<問題の概要>

物語の始めに問いかけが示されている効果を説明したものとして適切なものを選択する問題。

（正答：2）

<出題の趣旨>

- ・ 表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる。

3 二 本市の正答率：89.9%（全国の正答率：89.9%）

<問題の概要>

文章全体から、登場人物の性格を記述する問題。

（正答例：①気が長い ②気が短い）

<出題の趣旨>

- ・ 文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができるかどうかをみる。

4 一 本市の正答率：62.0%（全国の正答率：57.3%）

<問題の概要>

手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見付けて修正する問題。

（正答の条件）

次の条件を満たして解答している。

- ①誤って書かれている漢字として、「問」を線で消している。
- ②正しい漢字として、「問」の右横に「門」と書いている。

（正答：問→門）

<出題の趣旨>

- ・ 読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる。

【手紙の下書きの一部】

先日、
さて、昨申は、私たちの職場体験活動に協力いただきありがとうございます。大野さんを
はじめ、お店の皆さんに親切に指導してもらい、多くの学びを得ることができました。
この体験活動をするまで、私は、生花店で働くことについて、華やかなイメージしかもって
いなかったのですが、皆さんに教わりながら、一つ一つ仕入れた商品を下処理したり、葉や花びら
が落ちていないように気を付けたり、花を長持ちさせる方法や花言葉や葉を勉強したりすることを
通して、華やかさの裏には、それを支える作業や専門的な知識があることを知りました。

【課題となった問題】

1 四 本市の正答率：26.7%（全国の正答率：31.0%）

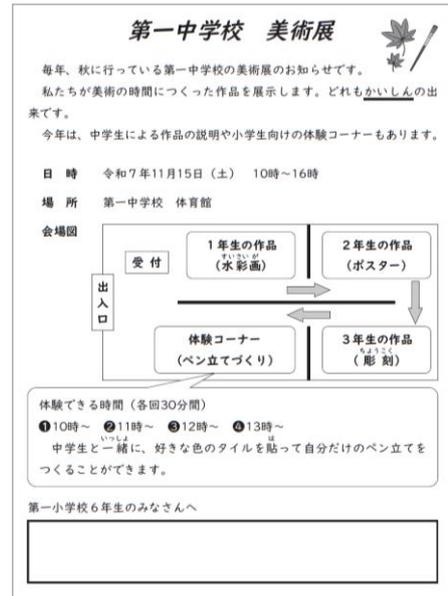
＜問題の概要＞

2つの条件に従い、ちらしの読み手に向けて、今年度の美術展の工夫について伝える文章を書く問題。

条件1 今年の美術展の【工夫】のA、Bから1つ選び（どちらを選んでかまいません。）、それと結び付く小学生の【感想の一部】をアからウまでの中から1つ選び、それぞれ塗りつぶすこと。

条件2 条件1で選んだ、今年の美術展の【工夫】と小学生の【感想の一部】との関係が分かるように、接続する語句や指示する語句を使って書くこと。

【ちらし】（更新版②）



【工夫】

A 作品に込めた思いや作品をつくる過程について、中学生が、来場者の求めに応じて説明する。

B 昨年はおみやげにしていたペン立てを、今年は体験コーナーを設けて、小学生につくってもらおう。中学生は、美術の時間に学んだことを生かし、手助けや助言をする。

【感想の一部】

ア どうやってあんなすばらしい作品をつくったのか知りたくなりました。美術でどんなことを学べるのが楽しみです。

イ いろいろな作品が展示されていて楽しかったです。思いのこもった作品が多いように感じました。

ウ おみやげにペン立てをもらえてよかったです。手づくりだと聞いてびっくりしました。私もつくってみたいです。

（正答の条件）

次の条件を満たして解答している。

- ①【工夫】のいずれか一方と【感想の一部】のいずれか一つを選んで、選んだ番号を塗りつぶしている。
- ②選んだ【工夫】に結び付く、【感想の一部】を選んでいる。
- ③選んだ【工夫】の内容と【感想の一部】の内容を適切に取り上げて書いている。
- ④接続する語句や指示する語句を用いて、選んだ【工夫】と【感想の一部】とを適切に関係付けて書いている。

（正答例）

・ A、ア

昨年の来場者から、どうやって作品をつくったのか知りたくなったという感想をもらいました。そこで、今年は中学生が作品について説明します。気になる作品があったら、ぜひ中学生に質問してください。

・ B、ウ

今年は、ペン立てづくりの体験コーナーを設けています。これは、昨年の参加者から、つくってみたいという感想をもらったからです。みなさんの参加をお待ちしています。

＜出題の趣旨＞

- ・ 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる。

<解答状況>

- ・解答類型2、3（正答の条件③または④を満たしていない）と解答した生徒は9.3%であった。このように解答した生徒には、選んだ【工夫】の内容と【感想の一部】の内容を適切に取り上げて関係を示して書くことや、接続する語句や指示する語句を用いて【工夫】と【感想の一部】を適切に関係付けて書くことに課題がみられた。
- ・62.9%が、解答類型に入らない解答であった。【工夫】か【感想の一部】どちらか一方だけを取り上げて文章を書いている解答が多く、2つの条件を満たして書くということに課題がみられた。

2 — 本市の正答率：32.2%（全国の正答率：38.1%）

<問題の概要>

スライドを使ってどのように話をしているのかを説明したものとして適切なものを選択する問題。

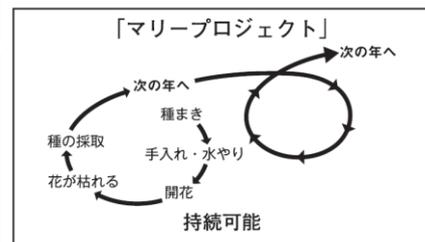
（正答：2）

一 村田さんは、【村田さんのスピーチ】の——線部㉞「スライドに示したように、次の年、また次の年へとつながる、持続的な活動であることが、この活動の大きな特徴です。」のように、スライドを使って話しています。このときの村田さんの話し方を説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までの中から1つ選びなさい。

- 1 聞き手の印象に残るように、スライドで意見だけを要約して示しながら、意見とそれを支える根拠を話している。
- 2 聞き手によって経験が違うことを考慮して、スライドで補足の情報を示しながら、話の要点を絞って話している。
- 3 聞き手が興味をもつように、スライドで異なる視点からの情報を示しながら、自分の主張を繰り返して話している。
- 4 聞き手からの質問を想定して、スライドで質問に対する回答を示しながら、自分の立場と考えを話している。

㉞ スライドに示したように、次の年、また次の年へとつながる、持続的な活動であることが、この活動の大きな特徴です。咲いた花を楽しむだ

〈スライド①〉



<出題の趣旨>

- ・資料や機器を用いた話し方の工夫を捉えることができるかどうかをみる。

<解答状況>

- ・解答類型1と解答した生徒が多く40.6%であった。スピーチの内容を意見と根拠に整理して捉えることができず、意見だけを要約したものがスライドに示されていると誤って捉えたものと考えられる。また、スライドに合わせて話す内容が意見を支える根拠であり、聞き手の印象に残るように話していると誤って捉えたものとも考えられる。
- ・解答類型3と解答した生徒は20.0%であった。㉞で、「次の年」が繰り返されていることに着目し、聞き手が興味をもつように、自分の主張を繰り返して話していると誤って捉えたり、スライドに示す内容が異なる視点からの情報であると誤って捉えたりしたと考えられる。
- ・多くの生徒が、資料を用いた話し方の工夫を捉えることに課題がみられた。選択肢に書いてある内容の理解が十分できていなかったとも考えられる。

3 四 本市の正答率：14.2%（全国の正答率：17.1%）

<問題の概要>

「二人の兄弟」という物語において、「一 榎木の実」に書かれている場面のあとに続く話が、「二 釣の話」には書かれていない展開になっていることによる効果について、自分の考えとどのように考えた理由を書く問題。

（正答の条件）

次の条件を満たして解答している。

- ① どのような効果があるかを書いている。
- ② ①のように考えた理由を、「文中の『あとに続く話』が『一 榎木の実』にはあるが『二 釣の話』にはない」という展開を踏まえて書いている。
- ③ ②について物語の内容を適切に取り上げて書いている。

（正答例）

- ・読者の意表を突く効果がある。なぜなら「一 榎木の実」には、失敗した兄弟がお爺さんのおかげで成功する場面が書かれているため、「二 釣の話」も同じような展開になると予想して読み進める読者が多いと思うからだ。
- ・読者に物語の続きを想像させる効果がある。なぜなら、「一 榎木の実」では、お爺さんの教えによって、二人は好い実を拾うことができたが、「二 釣の話」では、魚は釣れず、お爺さんに失敗の原因を指摘されただけで話が終わっているため、その後、二人が目的を達成できたのかどうか気になるからだ。

<出題の趣旨>

- ・文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができているかどうかをみる。

<解答状況>

- ・解答類型3（条件①・③を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの）と解答した生徒が多く、41.4%であった。文章の展開の効果については書くことができていたが、理由を書く際に、この問題で着目している展開を踏まえて書くことに課題がみられた。
- ・設問には、「理由を書く際には、物語の内容を取り上げて書きなさい」と書かれているため、条件③の物語の内容を意識して書くことはできていたが、条件②の展開を踏まえるという点については意識して書くことができなかったのではないかと考えられる。

【課題等 ○…できている点 ●…課題のある点】

- 文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができている。
- 表現の効果について、根拠を明確にして考えることができている。
- 読み手の立場に立って、表記や語句の用法を確かめて文章を整えることができている。
- 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに課題がある。
- 資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように、話し方や表現を工夫することに課題がある。
- 文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることに課題がある。

【課題となった内容に対する今後の取組み方針】

◇自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く

自分の考えが伝わる文章にするためには、意見とそれを支える根拠を明確にして書くことが大切である。そのため、まず自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確認する必要がある。

指導にあたっては、伝えたい事柄と根拠を適切に結び付けたり、事実や事柄を具体的に示したりして書くことができるようにしたい。その際に、言葉の学習で学ぶ「指示する語句」や「接続する語句」を適切に使うことやその効果を意識させたい。

例えば、相手や目的を設定した提案や企画など、自分の考えを簡潔にまとめて書く活動を取り入れ、書くために集めた材料を、意見と根拠の関係に着目して関連付け、整理してから書くようにする。そして、自分の提案がどのような事実や事柄に基づいたものであるか、「接続する語句」を適切に用いているかなど、文章について着目する点を提示し、書いた文章を読み合い、交流する中で自分の文章を見直すことができるようにしていきたい。

◇資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する

伝えたい内容が適切に伝わるように、効果的に資料や機器を活用することが重要である。

指導にあたっては、例えば、話の内容が十分に踏まえていないスライドの改善案を検討する学習活動を取り入れ、話の要点や根拠が明らかになっているか、説明が不足していないか、中心となる事柄が強調されているかなど、ポイントを確認しながら検討していくことで学べるようにしていく。資料を用いた話し方も、スライドを使ってのスピーチやプレゼン活動を通して、聞き手にとってどのような効果があるのかについて考えることを大切にしていきたい。

◇文章の構成や展開について、根拠を明確にして考える

文学的な文章の構成や展開について考えるためには、登場人物の心情の変化に沿って文章の流れを捉えることや、その展開を把握することが大切である。

指導にあたっては、文章全体の構成や展開を把握した上で、なぜそのような構成や展開になっているのか、どのような効果につながっているのかなど、自分なりの意味付けができるように、展開を予想する活動や、効果を考える活動を取り入れていきたい。

5 中学校 数学 《 実施人数：344人（いなべ市） 》

【よくできていた問題】

7 (1) 本市の正答率：78.5%（全国の正答率：77.4%）

<問題の概要>

A、Bそれぞれの手元のカードが右のとき、1回目は必ずAが勝つ。このとき、Aが勝つ確率を答える問題。

（正答：1 ※100%も可）

<出題の趣旨>

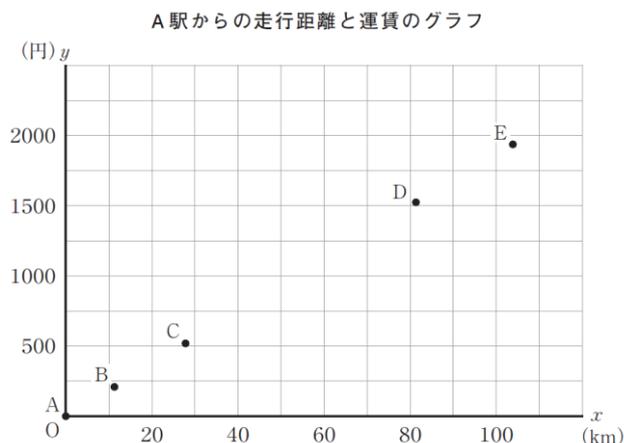
- ・必ず起こる事柄の確率について理解しているかどうかをみる。



8 (1) 本市の正答率：70.6%（全国の正答率：71.9%）

<問題の概要>

C駅とD駅間の走行距離は、A駅からの走行距離と運賃のグラフの何を読み取ればわかるかを、ア～エから選ぶ問題。



- ア 点Dのx座標と原点のx座標の差
- イ 点Dのx座標と点Cのx座標の差
- ウ 点Dのy座標と原点のx座標の差
- エ 点Dのy座標と点Cのx座標の差

（正答：イ）

<出題の趣旨>

- ・事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる。

【課題となった問題】

1 本市の正答率：26.2%（全国の正答率：31.8%）

<問題の概要>

1 から 9 までの数の中から、素数をすべて選ぶ問題。

（正答：2, 3, 5, 7）

<出題の趣旨>

- ・ 事象を数や式を用いて考察する場面において、素数の意味を理解しているかどうかをみる。

<解答状況>

- ・ 誤答の特徴としては、「1」を素数としたものが 58.5%あり、その内、「1」を除けば正しく素数を選んでいた解答（解答類型 4）が 25.0%あった。
- ・ 奇数を選んだ解答（解答類型 6）が 7.6%あった。
- ・ 「1」が素数でないということが正しく理解できていないだけでなく、1 とその数以外に約数がないという素数の意味そのものを正しく理解できていないと考えられる。

6 (2) 本市の正答率：19.8%（全国の正答率：25.7%）

<問題の概要>

連続する 2 つの 3 の倍数の和がどんな数になるかを調べるために、太一さんがおこなった式の変形でできた $2(3n+1)+1$ から、連続する 2 つの 3 の倍数の和は、どんな数であるといえるかを、「～は、…である。」という形で書く問題。

（正答例：連続する 2 つの 3 の倍数の和は、奇数である。）

<出題の趣旨>

- ・ 式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見出し、数学的な表現を用いて説明をすることができるかどうかをみる。

<解答状況>

- ・ この設問では、 $2(3n+1)+1$ が 2 の倍数 + 1 という形をしていることから、結論を「奇数である」と表現するのだが、解答類型 1 の正答率は 8.1%にとどまった。また、2 の倍数に 1 を足した数という表現の解答（解答類型 3）が 7.8%だった。
- ・ 誤答の多くは、結論を「3 の倍数である」としたものだだった。
- ・ 本設問における無解答率は、19.8%と比較的高い結果となっている。

【課題等 ○…できている点 ●…課題のある点】

- 必ず起こる事柄の確率について理解できている。
- 事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができている。
- 素数の意味の理解に課題がある。
- 式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することに課題がある。
- 統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することに課題がある。
- ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することに課題がある。
- 一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求めることに課題がある。
- 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。

【課題となった内容に対する今後の取組み方針】

◇素数の意味を理解できるようにする

中学第一学年で、自然数や素数について整数の性質として学習するが、その後の学習の中で素数の定義について振り返る場面は少ない。学習した時点では理解できていた事項であっても、その用語等に触れない期間が長ければ忘れるということは日常的に起こる。「素数」についてはそれにあてはまると考える。「1」が素数であると解答した割合が5割を超えていることから、正しく理解して知識として身に付けておらず、今後の指導にあたっては、素因数分解などの関連する学習において、意識的に素数を取り上げ、「1は素数に含まれない」ことを含めて素数の意味について再確認していきたい。

◇式の意味を読み取り、事柄の特徴を数学的に説明できるようにする

文字を用いた式の意味を読み取り、事柄の特徴を数学的に説明できるようにすることが大切である。しかし、本設問のように「奇数」を表す文字式として、単純に「 $2n+1$ 」と表したのではなく、 $2(3n+1)+1$ のように全体の形は2の倍数+1となっているものの、これまでの学習の中であまり触れてきていない形をしている場合、数学的な見方で「奇数」であると認識ができない場合がある。

指導にあたっては、一見複雑な式の形をしているものであっても、単純に表現できる基本の形と数学的には同様であるということを、授業の中で確認していきたい。また、文字式を様々な形に変形させることで見えてくる性質もあることから、指導事項からの発展形として指導していきたい。

◇元の証明を評価・改善することを通して、条件を変えた場合の証明ができるようにする

証明したことを基にして、条件を変えた場合の証明について考察する場面を設定し、条件を変えても変わらない関係、またその逆の関係などを見だし、元の証明を評価・改善することを通して、条件を変えた場合の証明ができるようにすることが大切である。

指導にあたっては、点を動かしたり線の向きを変えたりと、図形を変化させながら、図形の特徴や性質について考察する場面を設定するとともに、類題を示すことで、数学的な見方・考え方を伸長させていきたい。その上で、統合的・発展的に考察することができるよう指導し

ながら、条件を変えても同様の性質が成り立つのかという疑問を持ち、自分なりに探求していかうとする態度を養っていききたい。

◇方針を立て、証明することができるようにする

ある事柄が成り立つことを証明できるようにするためには、仮定や仮定からわかる事柄、結論を導くために必要な事柄を明らかにするとともに、証明の方針を立て、その方針を基に推論の過程を数学的に表現できるようにすることが大切である。

指導にあたっては、証明すべき事柄を明確にしたうえで、その根拠を見いだす活動を充実させていききたい。

◇一次関数における x の増加量に対する y の増加量を求めることができるようにする

一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求めることができるようになることが重要である。

指導にあたっては、 x (y) の増加量と x (y) の値との違いを明確に理解させる必要がある。「 x の値に対する y の値」と「 x の増加量に対する y の増加量」とは全く別の意味であるということを、対応表などを用いて丁寧に指導していききたい。

◇問題解決のために数学を活用する方法を考え、説明できるようにする

様々な問題を数学を用いて解決できるようにするために、問題解決の見通しを立てる場面や、問題解決の過程や結果を振り返る場面において、数学を活用する方法を考え、説明できるようにすることが大切である。

指導にあたっては、「表を用いる」、「式を用いる」、「グラフを用いる」など、問題解決の見通しを立てる場面において、自分の考えた解決の方法を表現したり、問題解決を振り返る場面において、どのような方法で解決したのかをまとめたりすることを大事にしていききたい。

6 中学校 理科 《 実施人数：350人（いなべ市） 》

【よくできていた問題】

①（6）本市の正答率：81.1%（全国の正答率：79.4%）

<問題の概要>

水道水と精製水に関する2人の発表を見て、探究の過程における自分の振り返りを書く問題。

（正答の条件）

次の(a)と(b)～(e)のいずれかを満たしているもの

(a)水道水や精製水に対して振り返る表現となっている。

(b)Bさんの視点を参考に、疑問に感じたことや、調べてみたいことを記述している。

(c)Cさんの視点を参考に、はじめの考えから考えが変化したことを記述している。

(d)Dさんの視点を参考に、身近な生活とのつながりについて感じたことを記述している。

(e)Bさん、Cさん、Dさん以外の視点で記述している。

（正答例 (a)と(c)を満たしているもの）

最初は、水道水と精製水の性質に大きな違いがないと思っていましたが、それぞれの作り方など大きな違いが実際にあるという考えに変わりました。

<出題の趣旨>

- ・ 科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうかをみる。

②（2）本市の正答率：90.5%（全国の正答率：94.6%）

<問題の概要>

「Web ページの情報だけを信用し考察してよいか」について判断し、その理由として適切なものをすべて選択する問題。

- (a) Webページの情報はすべて信用できるので、この情報だけで考察してもかまわない
- (b) Webページの情報はすべて信用できるので、考察を行う必要性はない
- (c) Webページの情報は信用できるものばかりではないので、学校の図書室で図鑑や専門書などを調べ、考察をする
- (d) Webページの情報は信用できるものばかりではないので、実験を行い、その結果から考察をする

（正答：(c)と(d)の2つを選択 または、(c)か(d)のどちらかを選択）

<出題の趣旨>

- ・ 情報を収集してまとめを行う学習活動の場面で、収集する資料や情報の信頼性についての知識及び技能が身に付いているかどうかをみる。

4 (2) 本市の正答率：92.9% (全国の正答率：92.8%)

<問題の概要>

「一酸化炭素は空気よりも軽い」という性質を基に、適切な避難行動を選択する問題。



有毒な一酸化炭素は空気より軽いので、
() ように行動します。

() に当てはまる最も適切な図を1つ選びなさい。



低い姿勢で避難する



走って避難する



机の下に隠れ、
そのまま座っている



窓を開ける

(正答：低い姿勢で避難する)

<出題の趣旨>

- ・ 火災における適切な避難行動を問うことで、気体の性質に関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる。

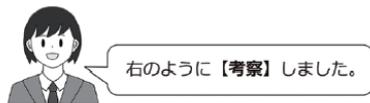
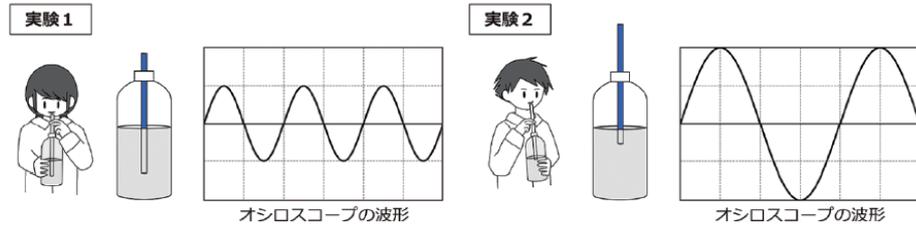
【課題となった問題】

2 (1) 本市の正答率：11.1% (全国の正答率：14.0%)

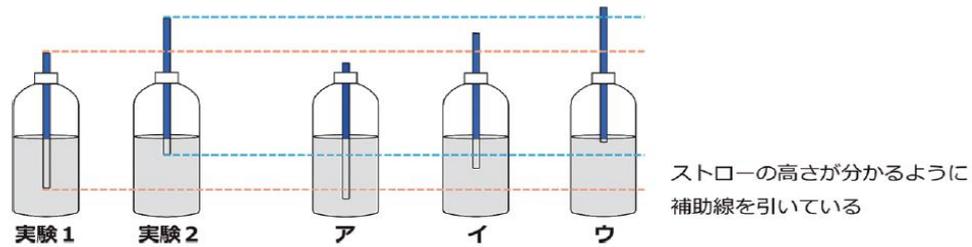
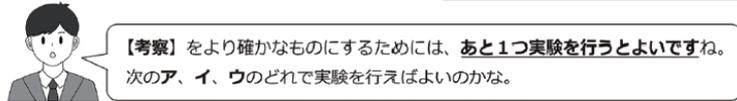
<問題の概要>

【考察】をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する問題。

【実験】「ストロー内の空気が入る長さ(■の部分)」を変えて実験を行ったときのオシロスコープの波形を観察しました。



【考察】
「ストロー内の空気が入る長さ(■の部分)」が、
長くなるにつれて、音はだんだん低くなる。



(正答例)

アを選択…実験1、2より振動数が多いことが分かればよい。

イを選択…実験1より振動数が少なく、実験2より振動数が多いことが分かればよい。

ウを選択…実験1、2より振動数が少ないことが分かればよい。

<出題の趣旨>

- 音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できるかどうかをみる。

<解答状況>

- 解答類型5が23.8%、解答類型10が21.4%、解答類型15が23.8%であった。このように解答した生徒は、予想される実験の結果について、「実験1より振動が多いことがわかればよい」のように、実験を比較して関係付ける表現がないものが多かった。考察をより確かなものにするために、適切な実験を計画し、文章で表現することに課題あると考えられる。
- 解答類型19は、11.1%であった。実験を選択しているが、振動数という言葉を使っておらず、実験で分かればよいことが書かれていない解答であった。変える条件に着目した実験を計画しようとしてはいるが、音に関する知識が活用できず、予想される実験の結果を思考することができなかったと考えられる。

【課題等 ○…できている点 ●…課題のある点】

○探究から生じた新たな疑問などに着目した振り返りを表現できている。

○気体の性質の知識が概念として身に付いている。

●音に関する知識を基に、変える条件に着目した実験を計画することに課題がある。

【課題となった内容に対する今後の取組み方針】

◇考察をより確かなものにするために、科学的な探究の見通しをもち、実験を計画する

考察の妥当性を高めるためには、計画した観察や実験の結果から何がわかればよいのかをまず考えることが必要である。その後、観察や実験を行い、科学的な探究の過程を振り返ることで、探究の見通しがもてるようになると考える。

指導にあたっては、実験や観察をすぐ行うのではなく、個人やグループなどで「実験や観察の結果から何がわかればよいのか」を確認し共有する活動を取り入れることで、科学的な探究の見通しを意識させたい。

変える条件に着目した実験を計画する際には、比較する実験や対象を明確にするために、実験結果の見通しを説明する活動の中で、「△△と比べて▲▲になればよい」と文章で表現する言語活動も充実させることを大切にしていきたい。

II 児童生徒質問調査の回答状況より

児童生徒質問調査の中から、いなべ市学校教育目標「いなべの明日を担う 心豊かで たくましい子どもの育成」に関わる項目について、その回答状況を三重県及び全国の結果と比較してまとめました。

<小学校> 「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合

質問項目	いなべ市	三重県との差	全国との差
自分には、よいところがあると思いますか	91.2	+6.1	+4.3
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	95.9	+2.8	+2.9
将来の夢や目標を持っていますか	87.5	+5.1	+4.4
人が困っているときは、進んで助けていますか	97.0	+3.0	+3.3
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	97.9	+1.5	+1.5
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	90.7	+8.9	+9.6
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	88.6	+9.8	+8.3
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	90.3	+11.1	+10.9
授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか	90.4	+8.9	+7.9
学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かしながら解決方法を決めていますか	93.1	+12.4	+9.8
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	83.4	+6.1	+5.3

<中学校> 「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合

質問項目	いなべ市	三重県との差	全国との差
自分には、よいところがあると思いますか	92.6	+5.8	+6.4
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	95.5	+3.6	+3.9
将来の夢や目標を持っていますか	70.8	+2.0	+3.3
人が困っているときは、進んで助けていますか	92.0	+0.9	+1.1
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	98.0	+1.6	+1.4
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	85.5	+7.8	+9.9
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	85.7	+5.6	+8.0
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	80.9	+5.7	+7.5
授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか	83.2	+6.7	+8.4
学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かしながら解決方法を決めていますか	92.0	+7.6	+7.7
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	87.1	+6.7	+7.9

【まとめ】

小学校、中学校とも、ほぼすべての項目について、肯定的な回答率が高い値となっており、全国や三重県と比べても高くなっている。中でも、「学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かしながら解決方法を決めること」が、よくできている。

令和6年度に比べて、「自分にはよいところがありますか」の質問に対して、小学校は、2.5ポイント、中学校は、5.4ポイント、また、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問に対して、小学校は、1.5ポイント、中学校は2.2ポイント高くなっている。

いなべ市が目指す、「子どもがAgencyを発揮しWell-being溢れる学校づくり」が推進されている大きな成果といえる。

Ⅲ いなべ市の取組について

いなべ市は、「子どもがAgencyを発揮し Well-being 溢れる学校づくり～自ら幸せをつかもうとする子に～」を最上位の目標に掲げ、「生き抜く力“智”」「生き合う力“絆”」「生き拓く力“志”」を育み、「一人力（自律する力）」と「仲間力（共生する力）」を高めるべく、子どもたちが学校生活の主体者となり幸せを実感できる教育活動に取り組んでいます。

学力向上については、文部科学省が示している学力の3要素（①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力 ③学びに向かう力、人間性等）に基づき、①②を「認知能力」、③を「非認知能力」と捉え、認知能力と非認知能力を共に伸ばすための取組を進めています。

今後も、本市においては、全国学力・学習状況調査の結果を踏まえつつ、以下のことに重点を置いた取組を推進していきます。

1 非認知能力の育成

自己肯定感の涵養を基盤とした非認知能力の育成を重点課題として位置付け、効果的な手立てについて研究し、授業を核とした教育活動のさらなる充実を図ります。

2 小中一貫教育の推進

義務教育9年間を通じた学びと育ちのリレーを念頭に、発達段階や教育上の課題に応じた一貫性のある系統的・継続的な学習指導や生徒指導を、小中一貫教育を手法として進めていきます。

3 授業づくりの充実

学校および校区における授業づくり研修の充実を図り、認知能力と非認知能力を共に伸ばす授業の実践と研究に取り組んでいきます。また、市の「学力充実推進計画」に基づいて各校が「学力向上アクションプラン」を作成し、具体的かつ計画的な取組を推進していきます。

4 集団づくりの充実

心理的安全性が確保されていることで、子どもたちは安心して挑戦と失敗を積み重ねていくことができます。安心して学びに向かえる環境の土台となる学級集団づくりの取組を充実させ、学習意欲の向上と互いに高まり合える仲間関係の構築を進めていきます。

5 学習習慣と生活習慣の確立

学校と家庭が連携し、健やかな心身の基盤となる基本的な生活習慣の確立と学習習慣の定着に向けた取組を進めていきます。また、学力の向上と関わっては、発達段階に応じて児童生徒が主体的に取り組む家庭学習の取組を進めていきます。

6 学力調査の分析と活用

国が実施する全国学力・学習状況調査、県が実施するみえスタディ・チェックに加え、市においても学力調査を実施し、児童生徒の学力の定着状況を分析し、明らかになった課題を克服するための取組を推進するとともに、より効果的な学習指導の在り方を検証していきます。

7 指導主事等による授業改善の支援

市教育委員会においては、学校や校区の主体的な取組を支援・伴走し、指導主事や学力向上特別指導員が授業改善を中心とした助言・指導を行うことで、授業づくりと集団づくりのさらなる充実を図っていきます。

8 教職員研修の充実

いなべ市教育総合研究所による研修講座を充実させることで、教職員一人ひとりの主体的な学びの機会を保障し、授業づくりや集団づくりに関わる指導力の向上を図ります。また、いなべ市教育研究会と連携し、研究・研修活動の充実に取り組んでいきます。